

望山先生



中嶋 嶺雄

去る四月十四日から十九日まで第十五回スズキ・メソッド世界大会がメルボルンで開催された。昨年七月に才能教育研究会会長をお引き受けした私も、国際スズキ協会会長の任にある豊田耕児氏と一緒に特別ゲストとして参加したのだが、スズキ・メソッドが全世界にこれほどまでに普及し、音楽を通じた国際交流の一翼を担いつつ、幼児教育の素晴らしい成果を挙げていることに、私自身認識

を改めざるを得なかった。市の中心のメルボルン・センターでのオープニング・コンサートに前後して、市西北のスコッチ・カレッジではヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、ピアノ、フルート、オーケストラや日本の才能教育研究会にはないギターや声楽の各部門に加えて、マリオンバやアフリカの太鼓・ダンスにいたるまで、ほとんどすべての音楽ジャンルの講習が幼児教育に結びつけて行われていた。メルボルンきっての名門校といわれるスコッチ・カレッジの美しいキャンパスには、こうしてスズキ・メソッドの子供たちやお父さんお母さん、指導者の先生が溢れていたのである。オープニング・コンサ

の冒頭は、松本で鈴木鎮一先生の指導を受け、メルボルン大学でも教鞭をとっていたというL・シェファード女史がこの日のために作曲した「大地オーストラリア」を、百人を超える生徒たちが演奏した。この序曲には、オーストラリアでおなじみの「ワルツィング

が沸き起こった。そんな次第だったので、最後に「音楽教育としてのスズキ・メソッドの特徴は暗記と繰り返したといえますが、これは幼児期からの外国語教育にも当てはまると思えます」と私の持論に触れたところ、会場から強い同調者の意見を聞くこともでき

た。各国を代表する生徒たちの演奏のなかでは、日程の都合でオーケストラとのリハーサルしか聴けなかったが、茅野市出身の河西絢子ちゃんのシベリウスのヴァイオリン協奏曲が圧巻だった。このような展開にも見られるように、スズキ・メソ

よつ。その頃に松本で学んだ生徒たちがいまや指導者として全世界に散らばり、今日のスズキ・メソッドの広がりを支えているのである。その意味でも松本市は大変な国際的発信力を有してきたことになる。これほどの国際的意味をもっている才能教育運動を、京都・松本市の貴重な活きた財産として発展させるためにも、豊田耕児氏が院長の専門学校・国際スズキ・メソッド音楽院を、市民のご協力を得て、ゆくゆくはニューヨークのジュリアード音楽院やパリのコンセルヴァトワールのような大学院大学にできないものかと、私は最近痛切に考え始めている。

(才能教育研究会会長・国際教養大学学長 松本市出身)

オーストラリアでのスズキ・メソッド

り、そして多くの生徒たちにとつては、

松本はいわば「聖地」のよう存在であるらしい。例えば、鈴木鎮一先生在世中は世界から多くの留學生が才能教育会館に来て勉強していた。会館ホールのステージで国際色豊かにチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を演奏する場面などは、実に素晴らしい芸術的な達成であったといえ